

総務環境常任委員会会議記録

日 時 令和2年2月10日(月曜日)
場 所 水戸市議会 第1・第2委員会室

午前10時 4分 開議
午前10時24分 散会

付託事件

(1) 所管事務調査

1 本日の会議に付した事件

(1) 報告事項

① 水戸市いっせい防災訓練について (防災・危機管理課)

2 出席委員(7名)

委員長	小 泉 康 二 君	副委員長	佐 藤 昭 雄 君
委員	滑 川 友 理 君	委員	田 中 真 己 君
委員	高 倉 富 士 男 君	委員	須 田 浩 和 君
委員	福 島 辰 三 君		

3 欠席委員(なし)

4 委員外議員出席者(なし)

5 説明のため出席した者の職、氏名

市長公室長	武 田 秀 君	国体推進局長	小 嶋 いつみ 君
国体推進局 参事兼 国体競技課長	大久保 克 哉 君	秘書課長	川 上 悟 君
政策企画課長	長谷川 昌 人 君	交通政策課長	須 藤 文 彦 君
情報政策課長	北 條 佳 孝 君	みとの魅力 発信課長	沼 田 誠 君
国体総務課長	村 沢 晶 弘 君		
総務部長	荒 井 宰 君	総務部参事兼 人事課長	天 野 純 一 君
総務法制課長	上 垣 外 泰 之 君	行政改革課長	熊 田 泰 瑞 君
中核市移行 推進課長	宮 川 孝 光 君	財産活用課長	谷 津 茂 男 君
財務部長	園 部 孝 雄 君	税務事務所長	小 川 喜 実 君
財政課長	梅 澤 正 樹 君	契約検査課長	青 山 和 夫 君
市民税課長	安 里 裕 行 君	資産税課長	関 根 豊 君

収 税 課 長	佐々木 信也 君		
市民協働部長	鈴木 吉昭 君	市民協働部長 市副 部 長	横須賀 好洋 君
市民協働部 技 監	大 和 直文 君	市民協働部兼 技 監 体育施設整備 課 長	太 田 達彦 君
市民生活課長	小 川 邦明 君	防災・危機 防 理 課 長	小 林 良導 君
文化交流課長	三 宅 陽子 君	新市民会館 新 備 課 長	篠 原 芳之 君
スポーツ課長	柏 直樹 君	男女平等 男 参 画 課 長	石 塚 美也 君
市 民 課 長	高 安 正紀 君		
生活環境部長	川 上 幸一 君	生活環境部 生 活 環 境 部 長	佐 藤 則行 君
生活環境部 参 事 兼 ごみ対策課長	篠 原 勤 君	生活環境部 参 事 兼 清掃事務所長	齋 藤 利光 君
環 境 課 長	林 栄一 君	衛生管理課長	渡 邊 徳子 君
廃棄物対策 準 備 課 長	亀 井 俊道 君	新ごみ処理 施 設 整 備 課 長	宮 田 正一 君
会計管理者兼 会 計 課 長	小 田 木 義弘 君		
選挙管理委員会 事 務 局 長	石 田 顕男 君		
監 査 委 員 事 務 局 長	綿 引 信明 君	監 査 委 員 事 務 局 次 長	和 田 隆 君
議会事務局長	小 嶋 正徳 君	議会事務局 次 長 兼 総 務 課 長	関 谷 勇 君

6 事務局職員出席者

議事課長補佐	永 井 直人 君	書 記	島 田 祐輔 君
--------	----------	-----	----------

午前10時 4分 開議

○小泉委員長 おはようございます。

定足数に達しておりますので、ただいまから総務環境委員会を開会いたします。

これより議事に入ります。

それでは、報告事項の説明を行います。

1の水戸市いっせい防災訓練について、執行部から説明を願います。

小林防災・危機管理課長。

○小林防災・危機管理課長 水戸市いっせい防災訓練について、市民協働部防災・危機管理課提出資料により御説明いたします。

本訓練につきましては、防災啓発事業として7回目の実施となります。

1、目的につきましては、東日本大震災を風化させることなく、地震発生時にはまず自分の身を守る、そして隣近所や周りの方と協力することを市民の皆様の日頃から意識していただくことを主たる目的に、水戸市が一丸となり実施するものでございます。

2、重点項目につきましては、市民の皆様の防災意識の醸成、市が発信する情報の入手方法の周知徹底、迅速かつ的確な市防災体制等の確立の3項目を掲げ、実施してまいります。

3、日時につきましては、より多くの方に参加していただけるよう企業や学校の行事等を調査し、2月27日木曜日、午前11時5分といたしました。

4、実施場所につきましては、2月27日11時5分に東日本大震災クラスの地震が発生したと想定し、安全行動を実施していただくことを基本としておりますので、どこかに集まるのではなく、皆様がいらっしゃるそれぞれの場所で実施していただくこととしております。

5、実施内容につきましては、共通訓練として、机の下に潜るなど、安全行動を実施していただきます。仕事の都合などで実施できない場合は、今、地震が起きたらどうすればいいか、考えていただく訓練でございます。

また、訓練実施時に、可能な方には茨城放送またはFMばるるんを聴いていただければ、11時から訓練実施要領や注意事項を解説し、11時5分には訓練開始の合図となる地震の擬音を放送いたします。

また、災害時を想定し、ラジオに加え、防災行政無線、市ホームページ、メールマガジン、ツイッター、緊急速報メールなど、本市において災害時に発信する媒体を全て活用し、訓練の実施を呼びかけ、市民の皆様に災害時の情報伝達をイメージしていただけるよう取り組んでまいります。

(3)追加訓練につきましては、共通訓練とともに可能な方に実施していただく訓練であり、本市といたしましては、地域、学校、事業所と連携し、各施設に応じた防災訓練などを実施してまいります。

説明につきましては以上でございます。

○小泉委員長 それでは、内容について御質問等がございましたら、発言を願います。

福島委員。

○福島委員 難しいことじゃないんだけど、防災訓練をやることとかそういうことはよいことなんだけれども、震度は幾つを想定しているの。そうでしょう、防災訓練というのはあくまでも地震ということなの

か、水害ということなのか。

○小泉委員長 震度6弱以上と書いてあります、目的の2段目です。

○福島委員 だけど、それをどのような、例えば震度6弱が水戸市の場合には起きているんだから、今までで全国で震度6弱ならどのぐらいの被害があるんだと。人間ね、想定できないことに対して、訓練というのではないでしょうよ。想定目標が震度6弱ならば、震度6弱のときにはこのような被害がございますよと。そして、このような対応が必要ですよと、まず、うちの中にいたら机の下に潜ってください。外にいたら、大木が倒れないようなところに避難してください。それぞれそういう想定問題というのがあって、学校にいたら、子どもはどうするんだ、保育園にいたらお母さんや先生はどうするんだと、そういう想定問題がなければ、これは各自、自宅、職場、それぞれが行うんだから、学校のときはこうなんですよと、こういうのは委員長、書いていないでしょう。

○小泉委員長 はい。

○福島委員 いいよ、委員長からの説明は。私がいつも委員長さんと。だから、きちんと想定問題と、それから、それをどのように、いざ地震が来たときにはクリアしてくださいよと、安心、安全の水戸市のまちづくりのための防災訓練ですよというのであるでしょう。

そういう、自宅の場合にはこれをしてください。学校の場合にはこのような訓練をします。保育園の場合にはこのような訓練をする。職場でもビルの場合と一般の2階建て、3階建て、木造といろいろあるんでしょ。そういう想定問題というのはないの。

○小泉委員長 小林課長。

○小林防災・危機管理課長 ただいまの御質問にお答えいたします。

まず、想定でございますが、震度6弱以上で、こちらにつきましては、御指摘のとおり、震度6弱以上になりますと、建物被害などがやはりこれまでの地震の実績の中でございますので、上部からの落下物であるとか、そういったものに注意していただくよう設定しているところでございます。

そして、御質問いただきました各施設におきましての被害想定等につきましても、各施設管理者と連携をしながら、それぞれの特性に合わせた避難と誘導、こういったところを連携し、実施してまいります。

以上でございます。

○小泉委員長 福島委員。

○福島委員 だからね、学校でも、鉄筋コンクリートの校舎と木造の老朽校舎といろいろあるわけですよ。幼稚園、保育園にしても、新しい建物を建てた幼稚園、保育園とか、それが古い幼稚園、保育園とか、そういうところの施設を、おたくの施設では震度6弱のときにはこのような被害が想定されますよという問題集がある程度なければ、訓練というのはその問題点に対して対応するんだから、対応課題というのは当然できるわけだよ。

だから、そういうところを2月27日まで時間があるんだから、各施設、各学校、この防災訓練に関わる施設に対し、そういう想定が示されれば、それに対応できる訓練というのがあるわけだから、あくまでも防災訓練、訓練というのは目標を持って、それに対応すると、うちではどのぐらいになる、ここではなると。そうでしょう。震度6弱でこの市役所にいけば全然違うでしょう。旧庁舎だったら大変だと。

また、今ある学校にしても、老朽化した校舎もあるし、それから設備が整ったところもあるし、それぞれ訓練の仕方が違うと思うので、そこら辺を配慮していただきたい。

以上です。

○小泉委員長 ほかにございませんか。

田中委員。

○田中委員 この訓練について、毎年やっておられることは積極的な意義があると思っておりますが、お聞きしたいのは、緊急速報メールというのが使われるということなんですけれども、いわゆる防災ラジオ、FMばるるんで何か発信されたときに自動で起動する、これを同時に活用されるということによろしいのか。また、その普及状況というのはどこまでいっているのか、併せてお聞きしたいと思います。

○小泉委員長 小林課長。

○小林防災・危機管理課長 ただいまの御質問にお答えいたします。

訓練当日につきましては、防災ラジオも自動起動を行って、訓練を実施してまいります。

また、防災ラジオの普及状況でございますが、現在、浸水想定区域や避難行動要支援者、さらには消防団や民生委員の方など災害時において御協力をいただける方にお配りをしているところでございまして、現状で配布状況は約1万6,000台を配布している状況でございます。

○小泉委員長 田中委員。

○田中委員 分かりました。

これは一斉訓練で、設定としては、この黄色いチラシにもありますけれども、可能な方は参加しようということと併せて、その追加訓練というのが可能な方に実施していただく訓練ということになってはいますが、地域、学校、事業所の連携ということですが、例えばその地域、自治連だとかあるいは小中学校で、この日に合わせて何かやるというのが具体的にしているところはあるのでしょうか。

○小泉委員長 小林課長。

○小林防災・危機管理課長 御質問にお答えいたします。

追加訓練という部分につきましては、地域や学校などからお声がけをいただきながら、資料などを提供して実施していただくパターン、または私どもの職員がお伺いをして、連携して実施するというパターンがございます。

そういった部分では、既に地域から幾つかお声をいただいておりますので、現在、調整をしているところでございます。

○小泉委員長 田中委員。

○田中委員 この一瞬、この日だけ訓練に参加しても、いつ地震が来るか分からないので、規模もいろいろですし、やっぱり日常化することが大事なんだろうと思うんですけれども、内閣府だとか消防庁がいろいろその先進事例を防災まちづくり大賞として表彰して、こういうのがネットに載っているんですけれども、例えば、岐阜県の恵那市だと、民生委員とか消防団、町内会の方が独居高齢者なんかのおうちへ行って、家具転倒予防事業としてそのL字型の倒れないようにするものを、これは市が購入して無料で設置するとか、そういう事例だとか、流山市だと、その子育て世帯の新住民が多いということで、防災・減災ノートを子育て

世帯に配って書いてもらう、そういうワークショップみたいなものをやるとか、いろんなアイデアが結構あって、そういうのがもっと普及していくと日常化するのかなというふうに思うんですけども、水戸市ではそういう何か取組というのは、この訓練と併せて積極的にやるべきじゃないかなとは思いますが、既に取組まれていれば何か御紹介いただければなと思うんですけども。

○小泉委員長 小林課長。

○小林防災・危機管理課長 ただいまの御質問にお答えいたします。

いっせい防災訓練における追加訓練という部分につきましては、どうしてもマンパワーの部分で限りがあるところではございますが、私どもは学校や地域とは年間を通じて防災訓練、または地域の実情に応じた防災研修などを行っているところでございまして、昨年度では101回、そして、1万4,000人を超える方に御参加をいただきながら実施しているところでございます。

加えて、民生委員の皆様や消防団との連携という部分では防災ラジオの配布においても民生委員の方に避難行動要支援者や高齢者のおひとり暮らしなどにお口添えなどをいただいて、連携をしているところでございますので、引き続き水戸市の特性に合わせた形で市民全体で防災意識を高められるように取り組んでまいりたいと考えてございます。

○小泉委員長 田中委員。

○田中委員 ぜひ、地域ごとにいろいろ差もあると思うんですけども、先進事例を全市的に普及するような努力をしていただきたいと思っておりますし、また、昨年の水害、これは地震想定訓練だと思うんですけども、水害に遭った地域では夜間だったり、避難情報の発信が遅れたというようなこともあって、2階に避難するというで難を逃れた方が多かったわけですけども、そういう水害想定区域でいえば、どういうルートで高台に逃げるとかというような、まさにそういう現地での訓練もやっぱり必要性が痛感されたんじゃないかなというふうに思うので、そういう、あるいは土砂災害が想定される区域とか、いろいろ個別に違うと思っておりますので、そういう点も含めた訓練の状況に応じた多様化というか、バラエティーを持った形でぜひ推進していただければなというふうに、これは要望として申し上げたいと思っております。

以上です。

○小泉委員長 ほかにございせんか。

高倉委員。

○高倉委員 いっせい防災訓練ということで、今回で7回目になるということで、当初、シェイクアウト訓練ですか、そういった形であったかと思うんですが、東日本大震災の教訓、決して、自分の身は自分で守っていただく前身の訓練が始まったと思うんですが、これまで過去6回やってきたところの、これまでこの訓練でどういった効果があったのか、また、市民の啓発意識とかの点について、どういった効果があったのかというのは執行部としてはどういうふうに捉えていますか。

○小泉委員長 小林課長。

○小林防災・危機管理課長 ただいまの御質問にお答えいたします。

これまでもシェイクアウト訓練、そして、いっせい防災訓練ということで実施してまいりました。その中で、いっせい防災訓練を実施するに当たりまして、緊急速報メールの活用ができるようになりました。そう

いった部分ではこれまで災害時において、避難情報などを発信するときに、緊急速報メールを活用すると多くの問合せが来て、そのメールの意義であるとか、役割、意味合いなどについて市民の方から問合せをいただいたところがございますが、こういったいっせいで防災訓練を実施し、日頃から災害時においてはこのような形で情報が出るんだということを認識いただいているように感じてございます。

そういった部分では現在、問合せなどもかなり減っている現状でありますので、情報伝達というところでは、かなり市民の方に浸透してきているものと考えてございます。

○小泉委員長 高倉委員。

○高倉委員 ここでもありますけれども、いろんな形で今情報を提供されてきた、その一つの確認の意味でも非常に大事な訓練になっているということですね。

市などで防災ラジオを今回、例えば浸水想定区域ですとかそういうところを中心に配布をしているわけですが、やはりそういった部分にきちんと情報が伝達しているのかどうかというのを確認してもらう、これは非常に大事ですね。

昨年の台風の時にも非常にラジオが活用されたという部分では、日頃からどういうふうに入ってくるのかというのをちゃんとキャッチしてもらう。そういったものというのも大事だと思います。

あと、その機器の部分ですね、先日もちょっと電波が入らないというところがあって、担当課のほうで見てもらったら、初期不良があった、そういったこともあったんですね、現実ね。そういうのを配布しているお一人お一人にきちんと情報が入ってくるのか、そういった機器もきちんと作動しているのか、そういったところも確認してもらう、これも大事だと思います。

また、そういったものがもし入らないということがあれば、きちんと対応して、いざというときに万全の備えをしていただくということが必要だというふうに思います。

あと、やはり一人一人が災害時にどういう行動をしていくのかという事前のそういった行動要請とか、こういうのもきちんと作っていただくという、そういうことも大事だと思うんですね。ですので、今後こういった訓練を通じて、またいろんな学校でとか職場とか家庭でそういったものをきちんと話し合っ、事前に決めていけるような、そういった取組もぜひ、もっと進めていただきたいなと思います。

それと、最後もう一つなんですけど、東日本大震災を機にこういうのが始まったということで、非常に効果も上がっているということなんですけれども、ちょうど来年が東日本大震災から10年目に当たると思います。そういった意味ではこれまでの10年の様々な訓練、その間の災害、いろんなものを生かして、ちょうど来年は節目ですから、また、こういった訓練についてももう一段階ステップアップしていけるように、そういう節目になると思いますので、今後その検討も進めていただければと、併せてこういうことをしていただきたいと思います。よろしく申し上げます。

以上です。

○小泉委員長 ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小泉委員長 ないようですので、この件について終わります。

以上で、報告事項を終わります。

それでは、以上をもちまして、本日の総務環境委員会を散会いたします。
御苦労さまでした。

午前10時24分 散会